

2022 年度 報告書



中部流域連携ネットワーク

■ 目次

中部のいい川ワークショップ in 天竜川流域

開催目的、実行委員会	 P.4
開催概要	 P.5
当日の様子	
・ 2022 年 11 月 12 日「活動発表」	 P.6～P.8
「パネルディスカッション」	 P.9
「風景写真コンテスト」	 P.10
・ 2022 年 11 月 13 日「エクスカーション」	 P.11
パネルディスカッションの要約	 P.12～P.19

学生たちを森へ 流域へ ～次世代育成組織の立ち上げ～

事業概要	 P.20
実施事業	
・ 根羽村林業インターン	 P.20～P.23
・ 天竜川下流から源流まで まるごとエクスカーション	 P.24～P.25
・ 答志島桃取 学生部会合宿	 P.26～P.27

中部のいい川ワークショップ in 天竜川流域

■開催目的■

中部流域連携ネットワークが発足して今年で3年目となり、昨年開催した全国規模の大会「いい川・いい川づくりワークショップ in 中部『川びらきだヨ！全員集合』」（2020年度は、そのプレ企画としてオンラインで「ゆく川・くる川 川談義」を開催）を契機として、年に1度、中部地域にて、川仲間たちが集合して活動内容の報告ができる場を設定しようという機運が高まり、今年度は、天竜川流域で「天竜川流域の仲間たちのフォーラム」を長年開催するNPO法人天竜川ゆめ会議と共催で実施する運びとなった。

川は、生きものを育み、地域や私たちの暮らしを支えてきたかけがえのない財産。このシンポジウムは、私たちがめざす川や水辺はどんな姿なのか、私たちにとって“流域連携”とはどんなことなのか、自由に柔軟に探っていくことを目的に、身近な川から流域全体、源流域や湖沼、用水、湿地、海浜といったさまざまな水辺、水循環など多様な領域・テーマで活動する市民・住民・行政に参加を呼びかけ、地域、世代、立場を越えた出会いを生み、交流を促すことを目指す。

■実行委員会■

日にち	場所	参加者
		内容
第1回 2022/5/17	オンライン	17人（内学生4人） 愛知県5人、岐阜県3人、三重県2人、静岡県2人、長野県4人、全国1人 開催時期、場所、開催体制、開催目的、企画など
第2回 2022/8/8	オンライン	15人（内学生2人） 愛知県5人、岐阜県1人、三重県1人、静岡県2人、長野県6人 企画検討、費用負担など
第3回 2022/8/27	オンライン	8人 愛知県1人、三重県1人、静岡県2人、長野県4人 実行委員長確定、運営、発表団体の確認
第4回 2022/9/21	オンライン	10人（内学生1人） 愛知県4人、岐阜県1人、静岡県2人、長野県3人 後援団体、パネルディスカッション、発表団体についてなど
第5回 2022/10/18	オンライン	3人（パネルディスカッション登壇者のみ） パネルディスカッションのうちあわせ
第6回 2022/11/8	オンライン	7人（内学生2人） 愛知県4人、岐阜県1人、三重県2人、静岡県1人、全国1人 当日の進行、役割分担など

上記以外に現地実行委員の打ち合わせ及び各関係部署への挨拶および協力依頼を実施した。



第3回実行委員会の様子

■開催概要■

日 時 2022年11月12日(土) 13:00~18:00
2022年11月13日(日) 9:00~12:00

場 所 宮田村民会館(長野県宮田村 7021 番地)

主 催 中部流域連携ネットワーク

共 催 特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議
／宮田村／宮田村教育委員会
／(一社)長野県測量設計業協会

後 援 国土交通省中部地方整備局／愛知県
／岐阜県／三重県／静岡県／長野県
／駒ヶ根市／飯島町／中川村／長野県治水砂防協会／長野県河川協会／長野県砂防ボランティア協会／(一社)長野県建設業協会／(一社)建設コンサルタンツ協会関東支部長野地域委員会／信濃毎日新聞社／中日新聞社／岐阜新聞社、岐阜放送／長野日報社／信州・市民新聞グループ／南信州新聞社／長野放送／LCV／伊那ケーブルテレビ／エコシティ・駒ヶ岳／飯田ケーブルテレビ／飯田エフエム放送

助 成 公益財団法人 河川財団 河川基金

参加人数 約100名

■当日の様子■

2022年11月12日(1日目)

13:00～ 開会，趣旨説明

《開会の辞》 宮田村長 小田切康彦さん

《主催者挨拶・趣旨説明》 中部流域連携ネットワーク代表 近藤朗さん

《進行方法の説明》 シンポジウム実行委員長 天竜川ゆめ会議代表 福澤 浩さん



受付の様子



開会の辞 小田切宮田村村長

13:20～ 活動発表

《内容》

エントリーした中部の14団体が活動について3分間で発表。司会者が質問を行い、発表内容を掘り下げた。



天竜川ゆめ会議

キーワード「上下流のつながりと、いのちのつながり」「山と海をつなぐ砂」「触れて学ぶ環境問題」



22世紀奈佐の浜プロジェクト実行委員会

キーワード「伊勢湾流域」「つながり」「学生合宿」



国土交通省天竜川上流河川事務所
天竜川上流域



矢作川流域圏懇談会
矢作川流域（愛知県・岐阜県・長野県）

発表団体一覧		
発表順	発表テーマ・タイトル	団体名・主な活動地域
1	遠州灘アカウミガメ放流ツアー	NPO 法人天竜川ゆめ会議 天竜川上流域
2	鈴鹿川探検隊 ～流域をつなぎ、世代をつなぐ取組み～	魚と子どものネットワーク 鈴鹿川流域（三重県四日市市、鈴鹿市、亀山市）
3	飯島いいものつくろう会について	飯島いいものつくろう会 天竜川上流域
4	河川市民団体の持続可能な活動に必要なことは？	名古屋大学国土デザイン研究室 全国の河川
5	拾い続けて42年～無理せずコツコツごみ拾い～	下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 （湖浄連） 諏訪湖
6	学童保育所を協働×伝統構法で木造化！街に森を創るプロジェクト	森と子ども未来会議 矢作川流域及び伊勢・三河湾流域
7	10月1日は「諏訪湖の日」	諏訪湖創生ビジョン推進会議 諏訪湖
8	豊かな海を取り戻すため、100年後の奈佐の浜の漂着ゴミをゼロに！	22世紀奈佐の浜プロジェクト 伊勢湾流域
9	語りつぐ天竜川シリーズの発行	国土交通省天竜川上流河川事務所 天竜川上流域
10	「つりチケ」を通した川づくりの繋がり活動	一般社団法人 ClearWaterProject 全国の川
11	門原川リメイクプロジェクト	長野県飯田建設事務所 天竜川水系門原川
12	ブラアイチ	ブラアイチ事務局（愛知県建設局河川課） 愛知県内の河川
13	一級河川 駒沢川の親水公園（親水護岸計画）について	伊那建設事務所 天竜川水系駒沢川
14	流域全体のつながりを考える	矢作川流域圏懇談会 矢作川流域（愛知県・岐阜県・長野県）

【 発表事例（一部） 】



魚と子どものネットワーク（三重県・鈴鹿川） 糸野楓一さん



水辺の
保全

環境教育

コーディネーター



名古屋大学国土デザイン研究室 増田有真さん



ClearWaterProject 「つりチケ」 瀬川貴之さん



矢作川流域圏懇談会

豊橋河川事務所 松田さん 筒井さん、星さん



15:30～ キラリを探すパネルディスカッション

〈ファシリテーター〉 NPO 法人天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩さん

〈コメンテーター〉 名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 中村晋一郎さん

〈パネリスト〉

- ・ 中部地方整備局 河川部長 舟橋弥生さん
- ・ 愛知県建設局 治水防災対策監 久保 宜之さん
- ・ 岐阜県 県土整備部 河川課長 岩井 聖さん
- ・ 三重県 県土整備部 次長 山口 成大さん
- ・ 長野県 建設部 河川課長 川上 学さん

《内容》

平成9年に河川法が改正され、“治水”“利水”の他に“河川環境の保全”が目的として加わり、さらに河川審議会から「河川整備計画の策定段階で地域住民の意見を反映する」との提言がなされた。それから25年。中部地方整備局と各県より河川環境保全・市民参加の取り組みについて報告いただき、中部での進捗を共有した。その後、

- ・ これまで河川環境整備を通して課題だと思っていること
 - ・ これまでの市民参加で課題だと思っていること
 - について意見交換を行い、この日発表があった14団体の活動に触れながら
 - ・ 流域治水の中で市民にできること、期待することは何か
- をテーマに議論した



パネルディスカッションの様子

16：50～ 《表 彰》風景写真コンテスト

《内容》

“私の大好きな中部の川”と題して写真作品を募集。応募作品は会場内に展示を行い、その中から「グランプリ」「準グランプリ」「入賞」作品を選考し、表彰を行った。

17：10～ 総評・総括

天竜川上流河川事務所 所長 佐藤保之さん

17：20～ 閉会の辞・謝辞

中部流域連携ネットワーク代表 近藤朗さん

17：30 閉会



表彰式の様子



総評・総括
天竜川上流河川事務所 所長 佐藤保之さん

懇親会



中部版いい川いい川づくりWS
次回は矢作川流域で開催したいね！



懇親会 集合写真

2022 年 11 月 13 日 (土) 2 日目

9:00～12:00 エクスカーション～魅惑の天竜川中流ツアー～

《内容》

天竜川上流河川事務所の解説で、河床連続性を
保つ砂防工事や景観に配慮した砂防工事等を見学した。

- ❖見学 1：与田切親水公園
- ❖見学 2：坂戸橋
- ❖見学 3：大田切流路工
- ❖見学 4：伊那食品工業(株)かんてんぱガーデン



＜パネルディスカッションの要約＞

■ 1) パネルディスカッションの趣旨と導入

河川法改正から25年を経て、進捗と課題

○天竜川ゆめ会議 福澤浩-

平成9年(1997年)に河川法が改正され、河川環境の保全が目的に追加された。また河川整備計画の策定に際し、住民の意見を反映することとされた。川がやっと市民のもとに戻ってきたという感覚であった。その後河川行政はどのように変わってきたのか、中部地整や中部各県の経緯・取り組みについてご紹介し、さらに議論しながら今後の課題解決を目指したい。

■ 2) 河川環境・市民参加の取り組みについて

○中部地方整備局 舟橋弥生 河川部長



中部地方整備局 舟橋弥生さん
左は名古屋大学 中村晋一郎准教授

・中部地方整備局では、例えば木曽川での(魚)イタセンパラの保全のためワンドを再生するなど、川づくりとの調和を進めてきた。ただし本来有していた河川環境を喪失させてきたことや、外来植物の繁茂といった新たな課題についても十分認識しなければならない。

・中部地整が恵まれているのは(国)土木研究所の自然共生研究センター(岐阜県木曽川河川敷)

が存在し、実験河川などで様々な研究や研修が実施できることにある。

・河川が本来有している姿・環境というのは実に多様であり、例えば天竜川では、礫河原の再生も試みているが、今の自然の力だけでは維持できないことも多く、そこで外来植物の駆除などといった市民との連携や協働作業が必要となってくる。

・実は失敗もたくさんしていて、何も考えず河川樹木を伐採し猛禽類生息空間を喪失させてしまっていたとか、河床掘削によりアユに悪影響はなかったのかなど、事前にもっと役所や市民に話を聞けば良かったということもある。

○愛知県 久保宜之 建設局治水防災対策監



愛知県 久保 宜之さん

・(国交省出身なので)昭和34年伊勢湾台風の大被害を受けた木曽三川河口部での対策を2010年代にしたり、高知河川事務所長時代「奇跡の清流」仁淀川、物部川などに関わった。「物部川21世紀の森と水の会」というのがあり、真剣に地域の未来を考えること、多くの人々に関心を持ってもらおうという活動をされていたのが印象的。

・現在愛知県で展開している「ブラアイチ」は先ほど活動発表されたが、部局を越えた県職員プロジェクトチームを編成しており、人材育成面の

効果が大きい。さらに開催地の方々（土木・観光）や愛知・川の会などとの協働で進めている。



愛知県ホームページ（HP）より

・その他、県は「みずから守るプログラム（自主防災促進）」や「コミュニティリバー制度（市民除草委託）」などで市民との関わりを深めている。また、乙川では「かわまちづくり」も進み、多くの市民が河川に関心を寄せるようになった。

・先ほど発表の矢作川では、水循環をキーワードに流域圏での新たな枠組み・取組みの議論を始めた（カーボンニュートラルプロジェクト）。

○岐阜県 岩井聖 河川課長



岐阜県 岩井 聖さん

・岐阜県は長良川のアユとか鵜飼文化など自然の恵み、山・森まで含めた流域の恵みを活かした取

組みを進めている（森林環境税の導入など）。

・「自然と共生する川づくり・人づくり」をキーワードに自然共生工法研究会、自然工法管理士制度、魚道カルテなど主に仕組みづくりを先行した。さらにベストリバー推進グループを組織し、具体的な河川事業で活用している。

桂川「揖斐郡揖斐川町」
(H23自然共生川づくり勉強会、パープ研究会)

☑ ハの字パープで淵づくり



岐阜県HPより

・職員、民間含め技術力向上を図るため、自然共生川づくり勉強会や事例発表会も展開中。特に発表会では市民との情報共有も目指している。

・魚のみち（フィッシュウェイ）～連続性の確保は特に力を入れており、市民サポーター協力によりカルテ更新も行っている。



点検状況（魚道下流から上流を望む）

○三重県 山口成大 県土整備部次長



三重県 山口 成大さん

・三重県では今から15年ほど前に、河川整備に関するハードソフト両面での中長期計画を策定した。三重県管理546河川の内、ハード対策30河川とソフト対策101河川を設定。現在は、流域治水対策プロジェクトへとシフトし、一級水系（7）と二級水系（73水系 10圏域）で策定済。

・多自然川づくり推進のため、「自然に配慮した川づくりの手引き（2003年改訂）」を作成、指針としている。具体的には、久米川、桧山路川（シロウオ保全）、船津川（ハマサジ空間保全）、横輪川改修などで活用、また三重県伊勢湾流域圏は天然記念物 ネコギギの生息地でもあり、保護管理指針も策定している。伊賀地方のオオサンショウウオについても同様。

天然記念物ネコギギ保護管理指針



・次の課題は、水辺空間の創出。多くの人たちに川への関心を持ってもらうことが重要である。

○長野県 川上学 河川課長



長野県 川上 学さん

・長野県は風光明媚・自然豊かな地域であり、箕輪ダム、安曇野の黒沢川、(大町市) 農具川河川公園、求女川のホタル水路など、これら美しい河川を守っていかなければならない。

・河川空間が地域資源として親しまれていくためには、計画段階から市民に参加していただくことが重要であり、天竜川水系遠山川（飯田市）では「信州のいい川づくり」モデル事業に認定している他、「かわまちづくり」としては 諏訪湖周辺地区などで進めている。

諏訪湖かわまちづくり
天竜川水系諏訪湖
(岡谷市・諏訪市・下諏訪町)

人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖を目指して、地域の特色を活かした拠点とネットワークを整備し、既存施設や各種主体との連携して、河川空間のさらなる魅力・賑わいの向上を目指します。



長野県HPより

・長野県では、2019年、2020年と令和に入ってから大きな水害に見舞われているが、この対策と共に、いい川づくりを併せて行っていく必要がある。

■ 3) これまでの環境保全の課題と今後

○福澤浩

天竜川は元々礫河原だったのに樹木が繁茂し、景観としてどうなのかという課題があった。市民が話し合って外来種のハリエンジュを伐採しようとした時、実は様々な反対意見も受けている。野鳥の生息環境を奪うのかとか、本来の天竜川環境も考えない人たちが折角生えてきた樹木を伐採するのか等々。私たちはそれら一人一人を説得しながら伐採にこぎつけたら、実に多くに人たちがチェーンソーを持って集まってくれた。そこからが天竜川上流河川事務所との長い付き合いの始まりであり、この連携により現在は礫河原が復活しつつある。今までの話を聞いてあの頃を思い出す。

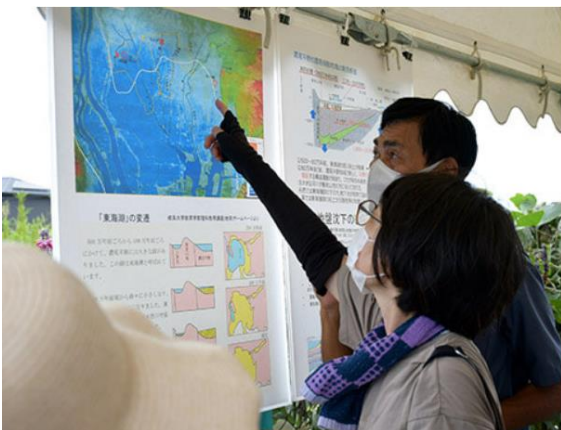
○名古屋大学 中村晋一郎

愛知県ブラアイチの取組みは市民のプラットフォームづくりであると同時に、主催する県職員としての様々な部署が繋がるプラットフォームであることも重要だと感じた。

福澤さんの話も含めて、環境というものの価値・見方が実に多様であり、その合意形成を図るためにも住民参加の意義が大きい。

三重県の中長期計画の話もあったが、これも含め今日の多くの発表事例から判るのは、この25年さまざまな取組んできたことが、今後の流域治水へと繋がり実を結ぶのだろう。

2022年9月17日 ブラアイチinあま



○福澤浩

この25年、河川環境の保全に取り組んできた中での苦労やその思いについて国・県に伺いたい。

○舟橋弥生

3つの課題がある。①河川環境整備の持続 ②治水と環境の両立・バランス ③意識の持続

洪水など自然現象・冠水頻度などは想定した様に発生するわけではなく、環境整備をするにせよ思ったようにはいかないことがある。それを樹木伐採など維持管理で対応しなければならないが、ここで市民連携の意義が出てくるし、環境保全・管理の難しさでもある。

治水と環境のバランスについては、近年気候変動の影響なのか大きな災害が頻発しており、治水重視にシフトしてしまっている。

思いの継承については、環境に配慮した設計・工事を実施したとしても、河川は自然のダイナミズムにより変動していく空間、設計思想が後世・管理者に伝わっていかないもどかしさがある。前例踏襲ではなく順応的管理の思想も必要。

以上を踏まえた、新たな理念を学識者の方々など含め議論し、構築していかなければならない。

○久保宜之

愛知県は岐阜県、長野県様々な河川から水をいただき暮らす地域。このような水がどこから来てどこに行くのか意識もせずに、高度な社会が形成されてきた。行政も県民も敢えてそれを知ること、やっとコミュニケーションが出来るのではない。教育から必要。

圧倒的に治水安全度が低い昭和の時代は、治水を最優先することで私たちは評価されてきた。平成以降は、まだまだ道半ばとはいえ以前より整備水準も上がり、(1997年の)河川法改正により河川環境保全は行政の目的となった経緯がある。市民の関心はそこへも向けられた。

一例として五条川(岩倉市)には市民に愛され

ている桜並木がある（下写真）。これは、治水とどう折り合いをつけるのか、維持管理をどうすべきかという議論の重要な場でもある。



○岩井聖

多自然川づくりは試行的な取り組みから全ての河川対象へと移行したが、まだまだ底上げが必要な段階である。災害対応に迫られる場合もあり、普段からの準備が重要、しかしそこに至っていない。技術力の向上、グリーンインフラも含めた流域治水にどう向き合っていくのが課題であり、検討していきたい。

○山口成大

限りある予算で、どう治水と環境を両立させるのが課題。三重県は、取り組んできたことに対して自信が持てていない、岐阜県の様なモニタリングや自己評価もやれていないという現実。そこに対しては市民からの応援が必要かなという感じがした。

○川上学

やってきたことが持続可能であることが重要であり課題でもある。そのためにも地域の方々と一緒にというのが大事だと感じた。紹介した求女川事例のように小学校も巻き込んでいく、それが持続可能性に繋がると思う。

○福澤浩

諏訪湖の湖浄連が42年続けてきた、若い面白い人材の会長が代変わりしながらの42年間継続に、私たちも学ぶべきことがある。



諏訪湖湖浄連の方々と中部流域連携ネットワーク

諏訪湖畔にて 2022年5月8日

○中村晋一郎

高度成長期の時代には、私たちは様々な分野でセクトを分けてやってきた。その中で例えば、「治水」「環境」「まちづくり」のように切り分けたものがトレードオフの関係になってしまったのではないか。ところが最近言われるグリーンインフラやEco-DRR（生態系を活用した防災・減災）ではシナジー（相乗効果）で論じられるようになった。治水と環境の両立は可能であるという発想の転換が重要で、次の流域治水においても「治水と環境がシナジーである」と認識し進めることが重要。

次に時間軸の捉え方の問題があり、私たちは河川管理者も住民も効果の出やすいものに目を向けがち。しかしながら環境の再生・復元などとはとても時間がかかる、住民参加でやる流域治水もすぐには効果が出ないものだと思えたほうが良い。大事なことは効果そのものの評価より、それぞれ管理者や住民が変わってきていること、進んでいることを実感できることではないか。

■ 4) 市民参加のあり方について

○福澤浩

私たちが行政と共に市民活動をしていくためにどうあるべきか？何をしたら良いのか？

○舟橋弥生

そもそもこちらから言うのは、おこがましい。本来一緒にやっていこうと言い出したのは私たち河川管理者。比較的うまくやっている河川もあれば、そうではない所もある。（2013年河川法改正を経て創設された）河川協力団体制度という枠組みも作られたが、それほど進んでいない。



国交省HPより

私たちに余裕がなくなっているのかもしれない。国交省が災害時に展開するTEC-FORCEでは多くの職員が地域を守るという使命感により各地で災害支援（調査、助言等）に従事している。

一方、災害以外での市民との連携の意識は薄れてきているのかもしれない。

中部地方整備局TEC-FORCE 令和3年7月



2021年7月 静岡県で発生した災害で活動するTEC-FORCE

中部地方整備局HPより

そこを変えていかなければならないと思うが、課題は職員構成の中堅層が薄くなっている（いわゆるM字カーブ）のが痛い。思いはあるけれどどうしたら良いのか分からない職員に対して、市民側からアプローチしてほしいと、願います。今日は中部地整河川環境課職員も来ており、この場を借りて学び・交流の場としたい。

○福澤浩

（当時）国交省・足立敏之さんの尽力もあり、河川協力団体制度が出来た。これを機能させるために中部での協力団体が2015年10月3日、ここ駒ヶ根市に集いシンポジウムを開催（その後2016年11月に中部地整で協力団体ミーティング実施）したものの、（愛知）市民団体の反対で空中分解した経緯がある。皆が同じではないが、どうすべきか？

○久保宜之

河川に関心のある特定の方々だけが私たちの対象ではない。様々な階層、セクター、旅行者まで含めすべての方々とチャンネルを持たなければならないのだろう。それは行政が努力すべきであるが体力的な限界もあり、ほど良い力加減も大事、最低限の責務に+α（環境・市民協働）をさせていく、それを継続させる方に注力したい。

○岩井聖

様々な考え方の人、また新しく来られた市民もあり、この河川がどういった川なのか、住んでいるところがどういう地域なのかを知ってもらうことが大事な。

紹介した自然共生工法研究会では様々な部会があり、さらに産官学が参加している。職員だけでなく、そこで様々な知見が得られ、例えば長良川の落差工などで実践している。

○山口成大

三重県での市民団体との付き合いで多いのは、やはり河川での除草やごみ拾いといった活動。河川・海岸系のボランティア活動は毎年200団体・35,000名程度、愛知県同様市民への除草委託も行っており、これには250団体・12,000名が参加をいただいている。高水敷での花植えまで含め、主に維持管理の分野で協働を進めているが、課題は高齢化。地域での世代継承をどう進めていくのか、新陳代謝を進めていくための施策を行政側で考えて行かないとダメだ。

○福澤浩

そういった意味では、伊勢湾流域圏全体を対象としている22世紀奈佐の浜プロジェクトがどのように世代交代を進めているのか、非常に楽しみである。



2022年10月 奈佐の浜プロジェクト海岸清掃と学生合宿

○川上学

長野県も河川愛護など市民活動参加者は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり（それだけではないが）、年々減少している。主に高齢化による担い手の減少と認識する。

そこで新たな取り組みとして、大きな樹木の伐採や市民が愛護活動で集めた除草・樹木・ごみ等を堤防にあげるなど重機が必要な作業は管理者で分担するという協働作業を始めたところ。いずれにせよ継続していくことが重要。

○中村晋一郎

いい川・いい川づくりワークショップなど全国の事例を見てもそこが問題で、世代継承を考えると自体に疲弊してしまっている。それよりも若い人たちは、実は自分たちで考えた新たな活動を河川でも始めている。既存の団体に必要なのは、そんな彼らを受入れ、持っている経験値を与えるなど共存の道を探るべきだろう。

行政の課題は多様化している。治水、環境、そして流域治水へ。これを全て行政だけで実施していくのは難しく、その多様性を地域でカバーする市民団体が求められる。シェアとパートナーシップが重要。

○福澤浩

市民団体設立20年で疲弊すると言われる。天竜川ゆめ会議（2006年設立）の先輩に三峰川みらい会議というのがあり、20年を経た。長期の継続が難しいところでもある。

○中村晋一郎

若い方々の活動は、やはり行政との付き合い方がわからないんですよね。そこを老舗団体（福澤さんたち世代）がサポートしてあげるというのが重要になってくるのではないですか。

■ 5) 流域治水について語ろう

○福澤浩

長野県は知事がこれから流域治水を強力に進めていく考えがある。どのように進めるのか？

○川上学

全国的に流域治水への転換が叫ばれているが、長野県は大きな河川（木曾川、天竜川、信濃川など）、各県の上流域を担う地域であり、しっかりと取り組んでいきたい。2021年2月に「長野県流域治水推進計画」を策定、主に「留める」「備える」を展開していく方針。

(1) 流域における雨水貯留等の取組 「留める」

- 公共施設における雨水貯留施設設置
- 市町村における各戸貯留施設設置費補助制度
- 雨水排水規制ガイドライン等の策定
- ため池や水田を活用した雨水貯留の取組
- 公共下水道（雨水）の整備
- 流域の森林整備
- 排水ポンプ車の配備

(2) まちづくりや住民避難の取組 「備える」～逃げ遅れゼロ～

- 危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置
- 浸水想定区域図の作成
- 住まい方の工夫の取組
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の策定
- 地域特性に配慮した「地区防災マップ」の作成
- 防災知識の普及に関する取組
- 「災害時住民支え合いマップ」の作成

これらが市町村や市民にも広がることを期待している。

○中村晋一郎

ブラアイチや岐阜・ベストリバーなど素晴らしい取組みが展開されてるが、特に流域治水について言わせてもらおうと、思想は素晴らしい。しかしネーミングが良くない。従来の治水というイメージが先行してしまうが、先ほど長野県の取り組みのように各家庭や田んぼに留めるなど暮らし方を変える、多面的な目的の中で生活の価値を高めるということが重要なのではないかな。

さらに言うと、流域治水という言葉をも自分たちの地域に読み替え、落とし込む作業が大事で、ブラアイチも流域治水の取り組みだと言える。それぞれ市民活動は楽しく展開されているが、やっているという実感が伴わないことも多く、流域治水も行政、市民それぞれ実感していくことが必要。

そういった意味で今日のような場にみんなが集い、褒めてもらう、語り合うことが重要で、これからも実感できる場を増やし、続けていきたいと思う。



以上 パネルディスカッションのまとめ

学生たちを森へ 流域へ 次世代育成組織の立ち上げ

■事業概要■

大学生、若手職員等を対象とした勉強会、現地視察等を開催し、次世代の川づくり人材(持続可能な社会を構想する人材)を育成する。具体的には、異分野の大学・学部学ぶ若者たちが地域づくりの先進地で合宿を行い、生きた事例を学びながら、交流を深める合宿型の研修を実施。また、多世代が関わって作り上げる活動発表の場（年1回のワークショップもそのひとつ）、川づくり・流域連携に関する学習会や体験機会などを設け、九州や多摩の流域連携会議や九州地方整備局にも人材育成のノウハウを学びながら適宜連携していく。

この2年半の実績として、20年、21年のいい川いい川づくりワークショップの活動を通して学生や若手社会人を中心とした次世代チーム（広報部）立ち上がった。このチームを中心に、22年度は「22世紀奈佐の浜プロジェクト」「矢作川流域圏懇談会・ミライ会議」「地域の未来・志援センター 未来創造プログラム」と連携し、「根羽村林業インターン」「天竜川下流から源流まで まるごとエクスカーション」「22世紀の奈佐の浜プロジェクト学生部会合宿」を実施した。

■実施事業■

『根羽村林業インターン』

- 目 的 農山村や里山を生かしたこれからの林業のあり方や、林業だけにとらわれず、人々の憩いの場や健康、子どもたちの感性を育むような新しい森林空間のあり方について、根羽村のトータル林業や森林空間活用、プレイスメイキング等の事例を通して学ぶ。また、山村や里山におけるこうした意図的に林業を選択して一次産業の担い手となっている I ターン移住者等のライフスタイルや、自己実現のあり方についてブレインストーミングを通して検討する
- 主 催 地域の未来・志援センター、22世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会
矢作川流域圏懇談会 「ミライ会議」

2022 年 3 月 試行版

- 日 程 2022 年 3 月 9 日（水）～10 日（木）
- 場 所 長野県根羽村森林組合及び施業現場、ホテル岡田屋（宿泊・意見交換会）、
小川川沿の森とサウナ
- 協 力 根羽村森林組合（今村 豊、小野 隆治、山本 英介、山本 勇太）、
- 参加者 大学生 5 名 （岐阜大学）米田 紗歩、（椋山学園大学）飯坂 温子
（名城大学）木造建築研究会 服部 あやな、安江 志乃
服部 友菜

矢作川流域圏懇談会ミライ会議 高橋 伸夫、中部流域連携ネットワーク 近藤 朗

地域の未来・支援センター ミツ松 由有子

桑山工務店 桑山 久（木造建築研究会協力企業）

行 程 3月9日 ① 根羽村トータル林業の話

② 伐採・植栽等施業現場見学

③ 今村さんと意見交換会

3月10日 ④ 製材工場視察

⑤ 間伐（伐採）体験、ブランコづくり、どこでもサウナ体験

⑥ Iターン林業従事者たち（小野さん、山本さん、木村さん）との意見交換会



⑤間伐体験



⑤間伐体験



⑤小川川沿の森とサウナ



③意見交換会

●妄想を実現させる共感力●

2日間にわたる林業体験インターンの締めくくりは、根羽村森林組合の御三方、全員がIターンにより根羽村にやって来られた方々であるが、小野さん・山本さん・木村さんと学生たちとの交流・意見交換会を行った。根羽村に来た動機やここでやってみたいこと、山での生き方など、これから生き方を模索して行くことになろう学生たちは、様々な示唆をいただいたと思う。

小野さんの発言の中でとても印象に残った言葉がある。「今村さんは妄想家。その妄想を実現、具体化してきたのは俺たちだ！」この言葉に他の二人も頷いていた。そうか、妄想家 というのは今村さんにピッタリな表現なんだけれど、妄想って何なんだろうと改めて考えてしまった。これは常識や既成概念にとらわれないわくわくする夢なんだよね。熱い思いがあるからこそ共感者が現れ実現へと動き出すというのが、正に矢作川流域圏スタイルなのだと痛感した。

2022 年 8 月

日 程 2022 年 8 月 18 日（木）～19 日（金）

場 所 長野県根羽村森林組合及び施業現場、小川川沿の森とサウナ、くりや、まつや邸、根羽村役場

協 力 根羽村森林組合 今村 豊 氏 小野 隆治氏

ネバーランド 幸山 明良 氏

一般社団法人ねばのもり 代表理事 杉山 泰彦 氏

参加者 大学生 9 名 （岐阜大学）川野 純也 米田 沙歩

（名城大学）石川 真望 岩永 正徳 白川源太郎 清水 一太 安江志乃

（信州大学）川崎 海斗 大田 龍治

人間環境大学 江口 則和

矢作川流域圏懇談会ミライ会議 高橋 伸夫 筒井 千遥

森と子ども未来会議 東海林 修

中部流域連携ネットワーク 近藤 朗

地域の未来・志援センター 三ツ松 由有子 河合 良太

行 程 8 月 18 日 ①根羽村森林組合の木材加工場 見学

②木材や森林資源の活用 事例紹介等

③1 日目の振り返り、意見交換会

8 月 19 日 ④ネバーランド裏、山地酪農の見学

⑤根羽村森林組合でのお話

⑥ねばの森 杉山さんのお話（林業や農業のビジネス展開について）

⑦根羽村役場見学





製材所の見学



地域材活用のための加工現場



伐採地の見学



産地酪農 幸山さんのお話@ネバーランド



今村さんと意見交換@根羽村森林組合



林業やコミュニティビジネスについて
杉山さんのお話@くりや



根羽村村長のお話@根羽村役場

『天竜川下流から源流まで まるごとエクスカーショ』

目 的 このエクスカーショは、今年度計画していた中部版「いい川」ワークショップ第一弾（前述「中部のいい川ワークショップ in 天竜川流域」の開催地が天竜川上流域となったため、準備及び下見を兼ねたものである。矢作川流域圏懇談会をはじめとする様々な枠組みの参加を促進させるとともに、多世代にわたる情報・経験共有の場を創ることが目的である。学生たちは、この後も矢作川流域圏懇談会バスツアー（コロナ第七波の影響で中止）や根羽村林業合宿（8月18,19日）、伊勢湾・奈佐の浜プロジェクト答志島合宿（10月8,9日）などへ向かう。

主 催 中部流域連携ネットワーク

22世紀奈佐の浜プロジェクト学生会

共 催 地域の未来・志援センター

協 力 長野県大鹿村 中央構造線博物館（学芸員）河本和朗氏

長野県下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会 小口智徳氏、小泉勝弘氏、熊谷昌憲氏

参加者 大学生・OB 5名（岐阜大学）米田紗歩、川野純也、OB 今井和樹

（椋山女学園大学）飯坂温子

（三重在住）前田純伶

地域の未来・志援センター ミツ松由有子、河合良太

中部流域連携ネットワーク（愛知・川の会）近藤朗、（フジヤマ）清水雅子

（建技）竹内えり子

地質・中央構造線 案内人（フジヤマ）遠藤技師（5/6のみ参加）

日 程 2022年5月6日（金）～8日（日）

場 所 愛知県、静岡県、長野県の天竜川流域、やまいろゲストハウス、岡谷セントラルH（宿泊・意見交換会）

行 程

5月6日 ①愛知県大千瀬川の煮渕ポットホール

愛知～静岡に至る中央構造線露頭箇所

②佐久間ダム（静岡県浜松市）

③ 天竜峡にかかる歩道橋「そらさんぽ」（長野県飯田市）

④飯田城址（飯田市）より天竜川を俯瞰

5月7日 ⑤ 天竜峡・天竜川ライン下り（飯田市）

⑥ 小渋ダム、排砂バイパストンネル（中川村）

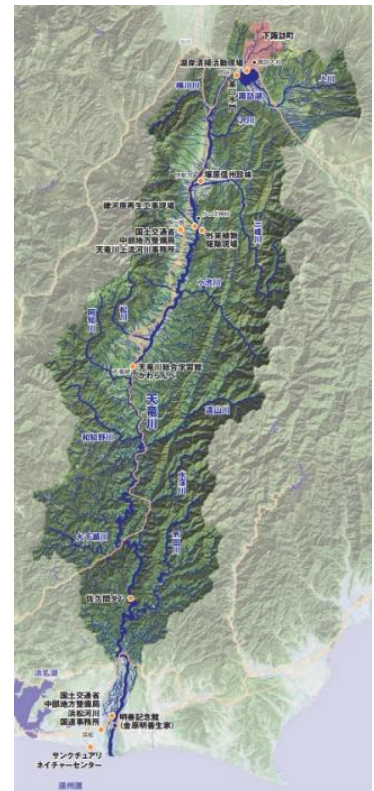
⑦ 大鹿村 中央構造線博物館（河本氏ガイド）

⑧ 諏訪湖釜口水門（岡谷市）天竜川最上流端

5月8日 ⑨ 諏訪湖湖畔、及び「御柱祭」（2022年は7年に一回の

開催年）関連箇所の視察（下諏訪町）諏訪湖浄化推進連絡

協議会 小口智徳氏他の案内による





① 愛知県大千瀬川の煮瀝ポットホール



② 佐久間ダム（静岡県浜松市）



③ 天竜峡にかかる歩道橋「そらさんぼ」



飯田市内 やまいるゲストハウス



⑤ 天竜峡・天竜川ライン下り（飯田市）



⑦ 大鹿村 中央構造線博物館（河本氏ガイド）



⑨ 諏訪湖畔、及び「御柱祭」
関連個所の視察



下諏訪町 諏訪湖畔にて
湖浄連のみなさまと共に

『答志島桃取 学生部会合宿』

目 的 伊勢湾の海岸漂着ごみ問題に端を発し、答志島の漁師・小浦氏（当時漁協組合長）からの SOS を受けて 2012 年に始まった「22 世紀奈佐の浜プロジェクト」。伊勢・三河湾は、海域面積 2342km²、陸域面積約 16000km²、人口は 1 千万人を超える大きな流域圏。年間 1 万トンを超す流木・ごみが流出し、その大半が鳥羽市及び答志島へ漂着する。この現状を知った愛知・岐阜・三重の仲間たちが毎年秋、答志島に集結して本問題を 10 年以上発信し続けている。2016 年頃から本活動の中で、学生たちが自主的に交流会を開催。その流れを受け、2019 年に学生部会が発足。現地を訪問してごみが流れ着く現場を自分の目で見て考え、地域の人々との交流を通して、伊勢・三河湾のごみ問題を自分ゴトとしてとらえる機会として合宿を行っている。

主 催 22 世紀奈佐の浜プロジェクト学生部会

協 力 中部流域連携ネットワーク、地域の未来・志援センター、矢作川流域圏懇談会ミライ会議

開催日 2022 年 10 月 8 日（土）～9 日（日）

（下見：8 月 22 日（月）、9 月 23 日（金・祝））

参加者 大学生・OB 20 名（岐阜大学 7 名、四日市大学 6 名、三重大 2 名、北里大 2 名）OB 3 名
中部流域連携ネットワーク（愛知・川の会）近藤朗、（魚と子どものネットワーク）新玉拓也
峯 和也
（アジア航測）筒井千遥、星 剛介

四日市大 千葉 賢

（株）リマーレ、森里海をつなぐフォーラムメンバー

場 所 三重県鳥羽市答志島桃取・奈佐の浜海岸

プログラム

- 10 月 8 日
- ① 株式会社 REMALE 見学
 - ・海のマイクロプラスチックを使った事業の説明、展示スペースの見学
 - ② シーカヤック体験・釣り・島散策
 - ③ 海の幸満喫夕飯準備→夕食
 - ④ 懇親会 海岸で焚火を囲んで
- 10 月 9 日
- ⑤ 漂着ゴミ問題について説明
 - ⑥ 海岸清掃 REMALE さん提供「海ゴミビンゴ」の実施
 - ・海岸で拾ったプラスチックゴミでビンゴ
 - ・景品は拾ったプラスチックでできたアクセサリーやボールペン
 - ⑦ 昼食 島の食材を使ったお弁当！



① リマーレ視察





③海の幸満喫夕飯準備



⑥海ゴミビンゴ



⑥海岸清掃

2020



2021



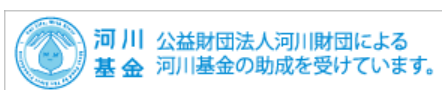
2022

2023



中部流域連携ネットワーク

事務局／名古屋市東区代官町 39-18 日本陶磁器センタービル5階
中部リサイクル運動市民の会内 NPO 法人地域の未来・志援センター内
電話 (052) 936-3213 FAX (052) 982-9089



本事業は一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受けています。